



令和元年度放射線安全取扱部会 年次大会へのお誘い



令和元年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員長 花房 直志

令和元年度放射線安全取扱部会年次大会(第60回放射線管理研修会)を令和元年10月24日(木)と25日(金)に岡山県倉敷市の倉敷市芸文館にて開催します。本年度のテーマは「現在と過去を整理するのは、未来のためだ」です。

中国・四国支部が担当する年次大会は、平成24年の松山大会から7年ぶりとなります。昨年は西日本豪雨により近辺に大きな被害がありました。その復興もまだ始まったばかりですが、会場となる倉敷美観地区周辺は安心して皆様をお迎えできる状態です。本年度のテーマ「現在と過去を整理するのは、未来のためだ」は、倉敷ゆかりの大原總一郎氏の言葉です。事業を率いるリーダーのシンプルで力強い言葉ですので、この言葉に「平成までの現在と過去を整理し、令和の未来に資する大会にしたい」との実行委員一同の思いを込めました。

大会1日目では、特別講演Ⅰで、毎年恒例となっております原子力規制庁による「放射線安全管理行政の動向(仮)」についてお話をさせていただきます。ご存知のとおり、9月1日より放射性同位元素等の規制に関する法律が施行されています。予防規程の改正等の作業が一段落したところですが、課題はまだ山積しています。この講演は情報收拾の絶好の機会となるでしょう。

シンポジウムⅠでは、「放射線事故の初動対応を考える」というテーマでいくつかの事例や対応の体制について紹介します。どの事業所においても放射線事故は起こり得ることとして備える必要がありますが、最初に対応するのは主任者や実務担当者です。机上訓練となりますが、自分の事業所ではどう行動するか、一緒に考えてみたいと思います。

大会2日目は、シンポジウムⅡで、岡山で行われたウラン開発の歴史について紹介します。岡山県にはウランの採掘、製錬、転換、濃縮等の核燃料サイクルに関する研究開発が行われてきた人形峠環境技術センターがあります。現在は、今後必要とされ

る廃止措置エンジニアリング、放射性廃棄物処理に関する研究が行われています。なぜウランが産出されるのかといった地学の話題から、センターの紹介、岡山県による環境監視の話題などを通して人形峠のウラン開発の現状を紹介し、その未来を考えます。

法令改正への対応では、予防規程の届出、教育訓練項目の変更が多く事業所の課題でした。シンポジウムⅢでは予防規程や教育訓練の改正、見直しの実例を紹介していただきます。また、改正RI法のもう一つの柱である防護について、最近の動向を紹介します。

午後からは特別講演Ⅱで唯一無二のシステムを構築し小惑星イトカワの微粒子の解析を行った岡山大学惑星物質研究所教授の中村栄三氏に「地球惑星物質総合解析システム(CASTEM)の構築と応用：小惑星イトカワ、チェリャビンスク隕石、はやぶさ2」との演題で講演していただきます。日本アイソトープ協会の生みの親とも言える仁科芳雄は岡山の出身です。特別講演Ⅲでは、同郷の岡山大学特命教授の小野俊朗氏に「原子科学の父仁科芳雄と郷里岡山」との演題で講演していただきます。

恒例のポスターコーナーですが、今年は機器展示会場と同じ場所で行います。立ち寄りやすい場所ですのでポスター発表者とじっくりお話できる機会となれば幸いです。その他、機器展示、書籍コーナー、相談コーナーも例年どおり設けます。ぜひお立ち寄りください。

最後に注意として、倉敷は観光地でありながら、あまりホテルの数が多くありません。年次大会にご参加の方は、なるべく早めにホテルを確保することをお勧めいたします。次善の策としては、岡山にホテルを取り倉敷に通うことも可能です。それでは、皆様と10月に倉敷でお会いすることを実行委員一同でお待ちしております。

(岡山大学中性子医療研究センター
/ 自然生命科学研究支援センター)